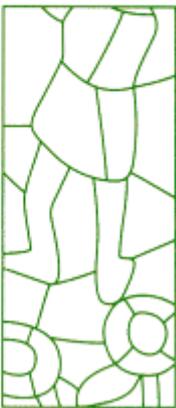
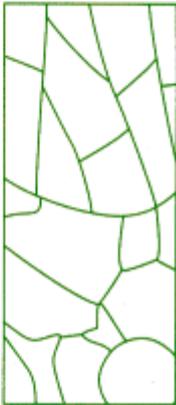
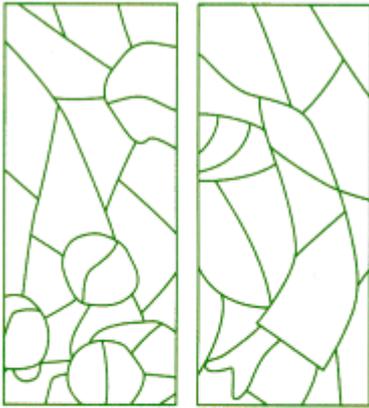


青山学院初等部 学校説明会資料



Jesus Loves the Little Children

内容

青山学院初等部の教育内容	2
1. 初等部教育の特色	2
① サーバント・リーダーの育成	2
② 5つのおやくそく	2
③ 宿泊行事の充実（→ 5. 宿泊行事）	3
④ 食育	3
⑤ ICT教育	3
⑥ 英語教育	4
⑦ パートナー制度	5
⑧ 日記を通じた心の交流	5
⑨ 日常評価と三者面談	6
2. 学級と校舎	7
3. 学年の特色	8
① 低学年（1・2年）	8
② 中学年（3・4年）	9
③ 高学年（5・6年）	10
④ 教科（国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・体育・コンピュータ・生活・英語・宗教・習字） ...	12
4. 特別活動と課外活動	15
① 特別活動	15
② 課外活動	17
③ 短期留学	19
5. 宿泊行事	21
6. よくあるご質問	24
【入学試験について】	24
【学校生活について】	26

青山学院初等部の教育内容

Ⅰ. 初等部教育の特色

① サーバント・リーダーの育成

サーバント・リーダーシップという言葉は、企業のリーダーシップの類型として使われた言葉です。しかし、この言葉は実はキリスト教のリーダーシップ精神を表す言葉で、トップダウン型のリーダーではなくボトムアップ型のリーダー像を表しています。つまり、トップに立ち権力を振るうリーダーではなく、縁の下の力持ちとしての役割を持ったリーダー像。これはまさに「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」（マルコ 10：45）と語り、弟子たちの足を洗うイエス・キリスト自身のリーダーシップと重なります。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆のしもべになりなさい」（マタイ 20：26—27）というイエスの教えからもそのことが伺えます。

青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現する人はサーバント・リーダーの役割を果たしていると言えます。立場や年齢と関係なく、誰でも「地の塩」として周りの人たちに貢献し、サーバント（仕える者）として役割を果たすことができます。また、「世の光」としての生き方は他の人を導く輝きをもつでしょう。これこそが、サーバント・リーダーの生き方です。

初等部で大切にしている「5つのおやくそく」—親切にします、正直にします、礼儀正しくします、よく考えてします、自分のことは自分でします—の実現に向けて努力をする人も、サーバント・リーダーへの道をあゆんでいると言えるでしょう。

② 5つのおやくそく

本校では、「親切にします」「正直にします」「礼儀正しくします」「よく考えてします」「自分のことは自分でします」という、5つの生活指針「5つのおやくそく」を大切にしています。1946年、前身の緑岡小学校が校名を変えて、青山学院初等部としての歩みが始まった年に、この「5つのおやくそく」もできました。

それから長い年月受け継がれてきたことは、この指針が教育的な本質を伴っていることを示しています。「します」という表現になっているのは、学校からの押しつけではなく、自ら行動の指針としてほしいという願いが込められているためです。

しんせつにします
しょうじきにします
れいぎただしくします
よくかんがえてします
じぶんのことはじぶんでします



③ 宿泊行事の充実

本校では、宿泊行事について三つの考えを大切にしています。

- 1 教育は出会いである
- 2 世界は教場（学びの場）である
- 3 先生だけがリーダーではない

「学校だけで学びを完結させずに、広い世界に積極的に出かけ、出会う人々全てから学ぶ」、これが初等部行事の基本です。この考えの元で系統的に数多くの宿泊行事、体験プログラムを行っています。

活動の質を高めるために行事検討委員会を設け、前年度の活動の良いところを踏襲し、改善点を検討した上でその年の児童にあったプログラムを組み立てながら実施しています。



④ 食育

生活の一部である食事大切な教育の場と考えています。身体だけではなく心を育てる食事となることを目指しています。

1年生のはじめに、簡単な軽食で給食の準備の仕方や食べ方、片付け、ルールなどを学んでから給食をスタートします。その後、教室給食や二学年合同で食事をいただく食堂給食を通してさまざまな場所での食事の準備の仕方や片付けの方法、マナーについて学びを深めていきます。

また、6週間に一度、学年ごとに頂く木曜ランチオンでは、食堂が「青山レストラン」へと変わります。その一学年のためだけに作られた特別の料理を食べながら、テーブルマナーや会食の楽しみ方、お客様のおもてなしについて学んでいきます。



⑤ ICT教育

学習の理解を深め、話し合い活動を活発にするために、日常的にICTを活用しています。

低学年では学習内容をわかりやすく伝えるツールとして、電子黒板や書画カメラを教員が活用しています。学年が上がるにつれ、子どもたち自身で自ら調べ、まとめ、発表するためのツールとして活用するようになります。

近年は、主に3年生以上でタブレットPCの活用も進めています。子どもたちがグループでの意見をまとめたり発表したりするためのツールとして活用しています。教科学習だけでなく、当日の予定を掲示したり、帰りの会での連絡を記載したりするなど学級活動の中でも活用しています。

本校、2012年度より学内にICT教育戦略委員会を設置し、授業での活用やICT環境整備に関しての検討を始めました。当委員会は、本校の教員だけでなく、青山学院大学の教授やICT関連の企業がメンバーとして属している、産学協働のプロジェクトです。本校でのICT活用の様子をフィードバックして、製品の改良に繋がったり、新製品の検証等を行ったりしています。その結果、より活用しやすいICT環境の整備を行うことができています。



⑥ 英語教育

初等部、中等部、高等部の12年間で連携し、第1期（初等部1年生～4年生）、第2期（5年生～中等部2年生）、第3期（中等部3年生～高等部3年生）とした4-4-4制一貫英語教育を進めています。小学校から高等学校までの12年間の一貫するカリキュラムに基づいて、オリジナル教科書 SEED BOOK を使用して学習しています。

また、課外活動として、希望者向けに週に3～4回「チャットルーム」を開催しています。チャットルームでは、青山学院大学に所属している留学生たちと英語を使ってゲームをしたり、簡単な会話をしたりと、楽しみながら英語に触れています。毎年100人を超える子どもたちがチャットルームを利用し、国際交流を楽しんでいます。

児童の日記から

チャットルームがありました。私は英語でしゃべるのはきらいだけれど、英語で遊ぶのは好きです。前に行ったときもとても楽しかったです。今回も面白いゲームをしました。それは、英語の単語の最初の文字だけを書いて、後ろに単語を書く、というものです。英語は苦手だけど、上手になれるようにがんばります。（5年生児童）

私は、英語が苦手です。でも、チャットルームだとゲームで楽しみながらできます。だから、いつも楽しんでできるし、おかげでだんだん英語もできるようになりました。英語はこれから生きていく上で重要なことなので、この経験を大事にしたいです。（5年生児童）

また、オーストラリア・クイーンズランド州ヌーサにあるグッドシェパード校などで、毎夏休み2週間のホームステイプログラムを実施しています。

児童の日記から

（前略）僕のホストファミリーは、3人兄弟でアウトドア派の家族だった。週末には川へ行ってモーターボートで楽しんだり、山登りをしたり毎日がわくわくの日々だった。そして何より楽しかったのは、バディとバディのお兄ちゃんが習っているオーストラリアンフットボールのチームの練習に交ぜてもらったことだ。初めて会うチームメイトが優しくしてくれて、思い切り走って汗を流した。

平日の学校の登校はバディのお兄ちゃんとスクールバスで45分だ。この長い間に、たくさん英語を深めることができた。学校の休み時間は、みんなで鬼ごっこや、ハンドボールというオーストラリアの手のひらくらいのボールを使うスポーツをクラスの子と楽しんだ。ルールもくわしく教えてもらい、うれしかった。

（中略）ホストファミリー、学校の友だちのことは、絶対に忘れない。明るくたくさん話しかけてくださったホストファザー、僕のことをいつも気にしてくださったホストマザー、日本の遊びに夢中になってくれたバディのお兄ちゃん、一緒にたくさん遊んでくれたバディ、明るくて僕を笑顔にしてくれたバディの弟、みんなのことは忘れない。お別れの日はとてもつらかった。正直、まだオーストラリアにいたかった。でも初等部に戻ったら下級生にこの体験を伝えてあげたい。（6年生児童）

⑦ パートナー制度

本校では、1年生が入学すると、2年生のお兄さんお姉さん、6年生のお兄さんお姉さんとそれぞれペアを組みます。これを「パートナー」と呼んでいます。2年生は身近なお兄さんお姉さんです。いっしょに学校探検をしたり休み時間に遊んだりする中で、1年生は遊び方や学校生活のおやくそくを学び、少しずつ学校に慣れていきます。

また、6年生のお兄さんお姉さんも、5年前に自分たちがパートナーのお兄さんお姉さんにしてもらったことを1年生の教室で自分のパートナーにしてあげられることを喜んでいます。



2年生パートナーとのフィールドワーク



6年生パートナーとの対面

児童の日記から

20ぶんやすみ、6ねんせいのきょうしつでやすまさくんにあいにいきました。だっこしてもらったからうれしかったです。

ほんとうのおにいちゃんみたいです。(1年生児童)

今日あしたの学校たんけんのれんしゅうをしました。あしたは1年生に「わからなかったらいてね。」とさいしょにいおうとおもっています。ろうかはしずかにするよとおしえてあげます。まだ先だけどすてきな2年生になってほしいから、ぼくもいろんなことをおしえてあげたいです。(2年生児童)

⑧ 日記を通した心の交流

本校では、1年生でひらがなを学習した後、日記を書き始めます。児童が毎日日記を書き、保護者と担任がそれを読んでコメントを書く、という取り組みを6年間続けます。これにより、児童の書く力が育つだけでなく、児童と保護者と担任の三者で心の交流をすることで信頼関係が深まっていきます。

⑨ 日常評価と三者面談

初等部では「日常評価」と「三者面談」に力を入れています。

日常評価

本校では、子どもたちの成長のために「学校任せ」「家庭任せ」ではなく、学校と家庭とが「車の両輪」となって子どもたちの成長に関わっていくことを大切にしています。そのため、プリントや小テストを通して子どもたちの日々の取り組みを日常的に評価し、家庭にお知らせしています。また、ノートや課題についても事前指導の上、日々の成長を丁寧に評価することに力を入れています。

三者面談

学期末に「三者面談」をおこなっています。子ども、保護者、担任の三者で、子どもの学習や生活の現状を確認し、今後取り組みたい課題とその具体的な方法を確認していきます。

全学年、面談の一週間ほど前からその学期の自身の取り組みについて振り返り、「成長の記録」という資料にまとめます。

1・2年生は保護者の方と一緒に記入しますが、3年生以上は自分で下書きをし、清書をして面談に臨みます。面談後、面談をふり返って次の学期や学年に向けての決意を書き記し、目標の達成を目指して日々取り組み、定期的に振り返るルーティンを作っています。



「先生がこうしなさいと言ったからやる」では、子どもの心は成長しません。自身の良かったところ、良い取り組みができなかったところを客観的に評価し、できなかったところはその改善策まで考えるこの取り組みによって、子どもたちはいわゆるP D C A (Plan→Do→Check→Act) サイクルを体験的に学んでいます。

こちらも、学校と家庭が両輪となって子どもを支え、子どもと共に前へ進んでいくことを目指して取られている方法です。「決算としての通知表」ではなく、日々の子どもの成長をともし確認しあうよう取り組み続けています。

2. 学級と校舎

1学級は32人、1学年は4学級で、1学年の児童数は128人です。

各学年とも、4人のクラス担任と数名の専門教科の教員でチームを組んで指導に当たっています。

2006年に完成した現校舎は、子どもたちの発達段階による生活の違いを考慮して、1年生から4年生までの教室がある「低中学年棟」と5・6年生の教室がある「高学年棟」に分かれています。

この2つの校舎を特別教室（音楽室、図工室、英語室、学習センター、コンピュータ室）が結んでいます。

		
低中学年校舎全景	階段	
		
低学年ウッドデッキ	プレイルーム	
		
礼拝堂全景	日本庭園	

生活時間帯が似ている1年生と2年生、また3年生と4年生はそれぞれ同じ階に教室があり、日常的に行き来がしやすいようになっています。

3. 学年の特色

① 低学年（1・2年）

「生活全てが学習の場となる」という考えから、子どもたちの1日は朝の登校から午後の下校までを1つの流れとして組み立てられています。その時の子どもたちの生活技術や興味・関心に合わせて授業を組むなど柔軟に対応しています。必要に応じて補助教員が付き、子どもたちの学校生活をサポートしています。

また、本校では、1年生の子どもと2年生の子どもがペアを組む「パートナー制」を実施しています。2年生は、1年生に学校生活のおやくそくや遊び方などを教えながら、自分たちも相手のことを考えて行動することを学んでいます。1年生にとって、2年生のパートナーと一緒に遊んだり生活したりする身近なお兄さんお姉さんであり、2年生のパートナーとの生活は学校生活の楽しみの一つでもあります。



教室給食



授業の様子



休み時間



おはなし会

児童の日記から

きのう2ねんせいのパートナーのみおりちゃんにたてやまのおみやげをもらいました。「おいもほりをしてきたよ」といっておいもをわたしてくれました。それに、おてがみもいっしょにくれました。とってもうれしかったです。

いえにかえったらさっそくおいもをやいてたべました。とてもおいしかったです。たべたらほくほくしてくりみたいでした。そのつぎのひに2ねんせいにおれいの手がみをかきました。（1年生児童）

今日、テレビれいはいが終わったら1年生のパートナーさんがお手紙をもってきてくれました。さつまいもの形をしていて外がわにはむらさき色のおり紙がのりではあって内がわは黄色いかた紙がはっています。お手紙には「おいもありがとう。のうぎょそののせいかつたのしかったですか。こんどおはなしきかせてね。わたしはうえのどうぶつえんでそうぶつをみてきたよ。こんどあそぼうね。」お手紙を見てところがあたたかくなりました。（2年生児童）

② 中学年（3・4年）

興味・関心の幅が広がり、主体的・意欲的に活動することで大きく成長する年代です。授業内容として、「実際にやってみる」「実際に見てみる」といった、子どもたち自身が活動する場面を多く設定しています。

また、そういった子どもたちの主体的・意欲的な活動の土台になるのは「読み・書き・計算」の力です。本校では各教科にて学年ごとの到達目標である「基礎・基本」を定め、その内容をもとに教育活動をおこなっていますが、中学年担当の教員は、これら基礎・基本の内容を確実に習得させることに力を注ぎ、活用的・発展的な学習の土台づくりに努めています。



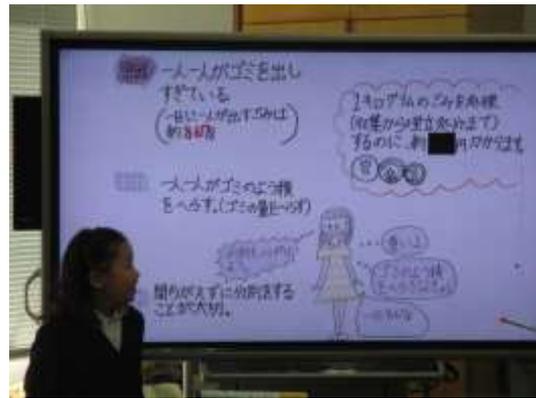
雪国の生活フィールドワークのまとめ



社会科見学（わたしたちのくらしと水）



学習発表会（わたしたちのくらしと水）



学習発表会（わたしたちのくらしとごみ）



学校駅伝大会（4～6年生）



地域の博物館の見学

③ 高学年（5・6年）

授業内容のさらなる充実、基礎・基本の定着、発展的な内容への挑戦を目指して、高学年では教科担当制を採用しています。これは、各教科の担当教員を定めて授業をおこなうものです。一人ひとりの行動や性格のちがいが目立って表れてくる高学年の子どもたちですが、教科担当制によってそんな子どもたちの興味・関心に対応した授業を行い、多くの教員で学年の子どもたち一人ひとりをしっかりと見ることを目指しています。多感な高学年の児童だからこそ、きめ細やかにフォローできる体制を整えています。

また、1年生と2年生のパートナーだけでなく、1年生と6年生もパートナーとしてペアを組んでいます。1年生にとって、6年生のパートナーは頼りになるあこがれのお兄さんお姉さんであるようです。6年生は、下級生への心配りや働きかけを通して、学校を動かす最上級生として大切なことを学んでいます。



授業の様子



水泳大会（5・6年生）



運動会（応援合戦）



パートナーとの休み時間の様子

児童の作文から

私が1年生の頃、一番困っていたことは給食でした。食べるのが本当に遅かったのです。1年生のとき、6年生のパートナーのお姉さんとの初めての食堂給食。わたしのパートナーも食べるのがゆっくりだったのでほっとしたのを覚えています。私が食べるのがおそくても、優しくずっと待っていてくれる優しいお姉さんでした。（中略）

最上級生になりました。1年生のパートナーもできました。そして初めての食堂給食です。「へらしたいものある。」と聞くと「うん、きゅうりが苦手だからサラダをへらしたい。」と言われました。私が1年生のころと同じでサラダが苦手でした。みんなで「ごちそうさま。」をした後もパートナーが給食を食べ終わるのを待っていました。私の頭の中には、5年前、わたしのとなりの席に座って「ゆっくりでいいよ。」と言って、私の給食を待っていてくれたお姉さんの姿がありました。私も、1年生から見て優しいお姉ちゃんにいられているかな、そんなことを思いながらがんばってサラダを食べる1年生を見ていました。「パートナーとのつながりを大事にする」そんな初等部の伝統を、改めて感じることができました。（後略）

◎I 週間あたりの授業時間数

	月	火	水	木	金	計
1年	5時間 前期4時間	5時間 前期4時間	5時間 前期4時間	4時間	4時間	23時間
2年	5時間	5時間	5時間	5時間	4時間	24時間
3年	6時間	5時間	5時間	5時間	6時間 前期5時間	27時間
4年	6時間	5時間	5時間	6時間	6時間	28時間
5年	6時間	6時間	6時間	6時間	6時間	30時間
6年	6時間	6時間	6時間	6時間	6時間	30時間

- ④ 教科（国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・体育・コンピュータ・生活・英語・宗教・習字）
 青山学院初等部では、その教科の特性を最大限に生かす授業をおこなっています。



国語

国語は全ての学習の基盤であると考え、相手を受けとめ自分を伝えるための力を育てます。言葉を学ぶためには読書はも有効です。1～3年生は、週1『時間「読書」』の授業も行っています。



社会

どの単元でも実際に見学したり体験したりして「調べる」それを分かりやすく「まとめる」、そして「発表する」ことを大切に学習しています。独自の単元「福祉」にも力を入れています。



算数

数学的な思考の土台となる計算力や数感覚を養うことや、学習習慣を身につけることを大切にしています。また、共に学びながら、友だちの意見に耳を傾けて自分の考えに取り入れられたり考えを人に伝えたりする言語活動を重視しています。



理科

基礎・基本を大切に、知識学習だけに終わらせないために、実験や観察を多く取り入れ、子どもたちの興味・関心を大切にしながら理科の学びを深めていきます。



音楽

音楽教育において本当に大切なのは楽譜が読めるかどうかではなく、音を楽しむことだと考えています。仲間とハーモニーをつくることのできた時の喜びや感動をたくさん味わってほしいです。



図工

のびのびと楽しく、作業に取り組むことができる図工室です。ひとりひとりがみずみずしく表現できることを大切にしています。



水泳

「水のある体育館」として可動床（0cm～130cm）の室内プールで、水慣れに始まり四泳法の習得、様々な遊びや水球等を行います。学年や指導内容に応じた深さで、教員・スタッフとともに安全に楽しく水と親しみます。



体育

基礎的な運動能力を身につけ、運動を楽しむ基礎を培うことを目標に、芝生の校庭、プレールーム、屋上、ウッドデッキで、身体慣らしや走・跳運動、鉄棒や跳び箱等の器械体操、球技等を行います。



コンピュータ

3年生から学習します。各自一台のタブレットの操作を学ぶだけではなく、WordやPowerPoint、動画編集ソフトの使い方の学習、プログラミング学習にも力を入れています。



生活

学校生活全部が「生活」の時間。学校のお約束や聖書の使い方を学んだり、学校探検に出かけたりして学校生活を楽しくするための授業となっています。毎月のお散歩や「手を使った仕事」も生活の時間に行います。



英語（低学年）

自分のことや身近な生活の話題など基本的な語彙を使いながら、英語で表現することの楽しさを学びます。



英語（高学年）

世界の国々の課題について調べ学習を行ったり、特別講師の方々からお話を伺ったりという活動を通して、英語で考える力を育成しています。



宗教

3年生から学習します。聖書の学びを通して、生かされている感謝、他者のためにどのように生きるかを考えます。



習字

4年生で学習します。墨汁を使うのではなく、心を落ち着かせて自分で墨をるところから行うことを大切にしています。

○実施教科

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	○	○	○	○	○	○
算数	○	○	○	○	○	○
社会	△	△	○	○	○	○
生活	○	○	△	△	△	△
家庭	△	△	△	△	○	△
コンピュータ	△	△	○	○	○	○
音楽	○	○	○	○	○	○
図画工作	○	○	○	○	○	○
理科	△	△	○	○	○	○
英語	○	○	○	○	○	○
体育	○	○	○	○	○	○
宗教	△	△	○	○	○	○
習字	△	△	△	○	△	△
読書	○	○	○	△	△	△
総合活動	△	△	○	○	○	○

○一日の流れ

礼拝	8:25~
HR 朝の読書	8:50~
1時限	9:10~9:50
2時限	10:00~10:40
20分休み	10:40~11:00
3時限	11:00~11:40
4時限	11:50~12:30
昼休み	12:30~13:40
5時限	13:40~14:20
6時限	14:30~15:10
HR	15:10~15:25
掃除	15:25~
クラブ開始	15:50~
下校	16:00
クラブ児童下校	16:30

4. 特別活動と課外活動

① 特別活動

特別活動として「総合活動」と呼ばれる活動をおこなっています。一般には児童会活動に当たるものですが、本校では「学校みんなのために働く時間」として、5・6年生全員が週1時間、希望登録制で14のプロジェクトに分かれて活動しています。

◎総合活動(5・6年)

宗教プロジェクト	礼拝や祈祷会で奉仕をしたり、献金や募金のお世話をしたりしています。CFJ(チャイルド・ファンド・ジャパン)やJOCs(日本キリスト教海外医療協会)の活動、日本聾話学校との交流などもおこなっています。
学習センタープロジェクト	2つの学習センター(図書室)のカウンター業務(本の貸し借り)を担当しています。また、移動の読書への興味が高まるように、本の紹介POP作りや本に関わる催しを企画しています。
保健プロジェクト	初等部の健康目標「自分の身体は自分で守る」に従って月ごとの目標を全校に伝えています。その他、ケガの種類や場所、時間帯を調査してポスターにまとめるなどの活動もしています。
環境プロジェクト	自然と調和した豊かな環境を作り足していくため、手作りのプランターに花を飾ったり落ち葉掃除をしたりしています。環境について話し合いポスターを作って全校に「地球にやさしい生活」のメッセージを伝える活動もしています。
給食プロジェクト	マナーや配食の上手な仕方、メニューや初等部給食の歴史、給食室の働き、給食室のキャラクターなどを紹介し、よりおいしくより楽しく給食をいただけるように活動しています。
放送プロジェクト	撮影・編集機器の扱いを学び、「初等部かわらばん」の撮影・編集と放送をしています。その他、初等部生活をよりよくするための校内放送用のCM作りもしています。
新聞プロジェクト	初等部で起きたニュースやみんなに伝えたいこと、リクエストがあったことについて取材し、記事を書いて「緑の新聞」として発行しています。
運動プロジェクト	みんなが楽しく体を動かせるように、遊び場所の使い方やルールについて考えます。ラジオ体操のお手本を見せたり、スポーツ大会の企画・運営を行ったりしています。
ホームページプロジェクト	初等部のホームページに載せる初等部のニュースや青山学院の歴史などの記事を書いています。自分たちで取材内容を決めて、写真や動画の撮影、編集まで全て行っています。
販売プロジェクト	購買会と協力し、初等部で使っているノート販売のワゴン当番を行っています。その他、大学購買部に見学に行ったり、物品販売の仕組みや販売業について学んだりもしています。
防災プロジェクト	『自分の命は自分で守る』を実践するため、災害対策に関する知識や情報を調べています。調べたことは動画やポスターを作成して、分かりやすく全校児童に伝えています。
SDGsプロジェクト	SDGsについての学習を進め、学んだことを初等部全体に共有します。SDGsの観点で普段の生活を見直し、自分たちの身近なところから始められる具体的な行動について考えて提案しています。
5年プロジェクト	5年生の生活をよりよくしていくために活動しています。学年の生活を振り返ってルールを作ったり、学年行事の一部を企画したりしています。
6年プロジェクト	6年生の生活をよりよくするために活動しています。また学校全体が過ごしやすくなるようにできることを話し合っています。学校行事や学年行事を支えるための企画・運営もしています。



学習センタープロジェクト（貸し出し）



販売プロジェクト（ノート販売）



環境プロジェクト（美化活動）



放送プロジェクト（全校放送）



宗教プロジェクト（ラファエル会訪問）



5年プロジェクト（学年イベント企画）

児童の日記から

今日は、五年プロジェクトであいさつのことについて考えましたが、家でも考えてみました。笑顔であいさつされるとうれしくなるし、自然と自分もあいさつできるようになります。

どうしてあいさつが大事かも考えました。

- ・みんなが気持ちのいい学校生活が送れる。
- ・知らない子などと仲良くなれる。
- ・あいさつをしていると下級生もまねしてよりよい学校になることができる。

どうしたら、みんながあいさつをするかは難しいです。わたしは、一週間の終わりにみんながあいさつをできたか、いろいろな先生方に聞いてみるのはどうかと考えてみました。みんなであいさつをして、よりよい気持ちのいい学校生活を送りたいです。

（5年プロジェクト児童）

② 課外活動

「クラブ活動」を課外活動としておこなっています。12のクラブがあり、放課後や土曜日に活動しています。クラブへの登録は自由なのでクラブに入らない子どももいますが、3年生以上のクラブ登録率は95%をこえています。クラブの中には、聖歌隊やベルクワイアといった、礼拝で奉仕をするクラブもあり、本校の特色の一つと言えます。

◎クラブ活動

クラブ	対象学年	
聖歌隊	3～6	日々の礼拝奉仕、イースター礼拝、お母さんへの感謝のつどい、クリスマス讃美礼拝、入学式、卒業式、学院全体で行う「点火祭」などで歌の奉仕をしています。その他、各種演奏会にも出演しています。
ベルクワイア	3～6	日々の礼拝やクリスマス讃美礼拝などでハンドベルの演奏の奉仕をしています。近年ではA0ビルでのハンドベルコンサートなども行っています。
ラグビー	3～6	1953年創部の日本で最も古い少年ラグビーチームの一つです。学年別に専門コーチや卒業生のボランティアの方の指導を受けています。5・6年生になるとチームを組んで他校との試合を行っています。
女子スポーツ	3～6	いろいろなボールゲーム、バトントワリング、リレー、体づくりなどをしながら、楽しくスポーツをしています。私学の体育発表会のダンス部門にも出場しています。
水泳	2～6	泳ぐ力に応じて、グループに分かれて練習をしたり、長い距離を泳いだり、ゲームや水遊びをしたりしています。
トランペット鼓隊	3～6	トランペット（コルネット）からチューバまで、さまざまな音色を出す金管楽器と、リズムカルに全体を盛り上げる打楽器とが一体となって曲を作り上げています。運動会でマーチングと楽曲を披露しています。
美術	4～6	美術クラブでは油絵制作やデッサン、クロッキーを中心に活動しています。ものの見方や描き方のコツ（テクニック）なども学びながら自由に楽しく絵を描きます。作品は学内・学外さまざまな展覧会に出品しています。
アマチュア無線	4～6	無線の免許を取る学習をしたり、電子工作をしたりしています。6年生はロボットを作り、簡単なプログラミングも学んでいます。
英語	3～6	英語で歌を歌ったり、本を読んだり、文章を書いたりして、楽しく活動します。また、季節に合わせて、イースター、クリスマスなどをお祝いしています。スクールアンバサダーとして、インターナショナルスクールや海外の学校の子どもたちと交流をしています。
自転車	4～6	通常の活動では自転車の操作技術を練習したり、安全な走行について警察署の方から学んだりしています。土曜日を使って多摩川サイクリングコースを走ったり、6年生が企画したコースを走ったり、チームを組んで自転車レースに参加したりしています。
アウトドア	5～6	自然を舞台にみんなで一緒に活動するクラブです。キャンプなどの自然体験活動を中心にを行っています。
クリスマス	4～6	身近な材料を用いて、それぞれが作品を作るクラブです。自分を作ってうれくなる物や誰かがみてうれくなる物を作っています。
ランニング (休止)	5～6	短距離走、リレー、中長距離走、駅伝など、年間を通してさまざまな走りを楽しんでいます。大学陸上部との交流練習会を行ったり、公式大会へ参加したりもしています。



トランペット鼓隊（運動会での演奏）



ラグビー部（合宿）



聖歌隊（クリスマス讃美礼拝での奉仕）



英語クラブ（通常活動）



自転車クラブ（ツーリング）



アマチュア無線クラブ（通常活動）



ベルクワイア（礼拝での奉仕）



女子スポーツクラブ（通常活動）

③ 短期留学

【止揚学園】

滋賀県東近江市にある止揚学園に4年生から6年生の希望者が3泊4日間短期留学をします。止揚学園は、知能に重い障害を持つ人たちの施設です。

毎年、止揚学園の方々に迎えられ、やきそばパーティの歓迎会から始まり、運動会、貼り絵、散歩などのプログラムを通して交流します。子どもたちは、この交流を通して「生きるとは何か」「幸せとは何か」を考えます。毎年継続して参加する児童がとても多い行事です。



児童の作文から

(前略)

私が特に、みんなと仲良くなれたのは、2日目の午後に行われた運動会です。運動会では、名前当てクイズとリレーを行いました。私は、リレーが心に残りました。それはなぜかという、私のグループには、トヨコさんがいました。1回目、トヨコさんは保母さんと走りました。トヨコさんは、全然走らなくて、最初は歩こうともしませんでした。でも、2回目、私が一緒に走った時、つないだ手からトヨコさんはいまトヨコさんにできることを、一生けん命歩いているんだと感じました。私はこの時から、止揚学園のみんなとたくさんおしゃべりをするようになりました。そして、これがきっかけでたくさんの人と仲良くなれました。だから私は、トヨコさんに感謝しています。

私は、ここに来て、考え方を一から学んだ気がします。弱い立場の人のことをよく考えて行動する心、小さなことにも喜べる心、わたしたちはみんな一緒なんだという……。他にもたくさん学びました。私は6年生だから、もう止揚学園には行けないけれど、今回教えてもらったことを、つねに心に留めて生活していこうと決めました。(6年生児童)

【私立北陸学院小学校】

石川県金沢市にあるキリスト教主義学校の私立北陸学院小学校に、5・6年生の希望者が短期留学をします。現地では、三泊四日ホストファミリーと生活を共にします。平日は、北陸学院小学校で礼拝や授業などをいっしょに受け、楽しく豊かな交流のときを持ちます。

【イングランドサマープログラム】

2018年度から16日間のイギリス短期留学を実施しています。世界中から集まった仲間と共に、ミュージカルを創るというアクティビティを通して、新しい視点から知識・表現方法・語学力を学ぶことをねらいとした短期留学です。

【オーストラリアホームステイ】

オーストラリア・クイーンズランド州ヌーサにあるキリスト教主義の私立学校であるグッドシェパード校で、夏休み2週間のホームステイプログラムを実施しています。年齢が近い子供（バディ）がいる家庭にホームステイをし、一緒に生活をしたり、学校に行ったりしてオーストラリアで約2週間過ごすプログラムです。

【フィリピン訪問プログラム】

毎月初等部でお捧げしている献金の一部は、フィリピンの貧しい子どもたちのためにCFJ（チャイルド・ファンド・ジャパン）を通して用いられています。そのプログラムの一環として、毎年3月に5年生数名と教員がフィリピンを訪れ、初等部がサポートしているフィリピンの子どもたちと交流しています。初等部、中等部、高等部、大学で共通のプログラムを実施し、「本当の豊かさとは何か」「幸せとは何か」などの大きなテーマを共に考えます。



児童の作文から

私がフィリピンに行こうと思った理由は、わたしたちが支援しているフィリピンの子どもたちに会いたかったからです。頭の中の半分は「ヤシの木に登ったら楽しそうだなあ」ということでした。しかしフィリピンについてとたん「遊ぶ」と考えられなくなりました。フィリピンの現状を知ったからです。（中略）

「幸せ」とは何なのか。また、日本は幸せな国なのか考えてみました。日本は幸せな国で、フィリピンは幸せな国じゃないかという、わたしはどちらも違うと思いました。「幸せ」はモノがあればよいのではないと思うようになりました。確かにモノは必要です。でも、わたしは「人とのかかわり」も「モノ」と同じくらい大切だと思います。そのことを強く感じたのはギマラスでの出来事です。（中略）

私が人とのかかわりについて感じたのはわたしたち日本人にとっても優しく接してくれた現地の子どもたちとのかかわりだけでなく、フィリピン人同士の関わりもです。特に近所でのかかわりです。私たちのために集まってくれたのは、みんなご近所さんでした。わたしはマンションに住んでいます。私の住んでいるマンションには子どもがたくさん住んでいます。それでも顔を知っていて話したことのある子どもは10人に満たないと思います。フィリピンにはマンションがあるわけではありません。それでもご近所さんの友だちがたくさんいます。日本とは全くとちがうなと思いました。

ギマラスで学んだことは「ギマラスの人はモノの幸せではなく人とのかかわりの中で幸せを作っている」ということです。はっきりいうと確かにギマラスには日本に比べてモノはありません。でも人との関わりの面では日本にはない優れたものがありました。（後略）

（5年生児童）

5. 宿泊行事

宿泊行事は、1年生から各学年でおこなわれています。現在おこなわれている宿泊行事の多くが、1970年ごろから始められたもので、そこから40年以上続いているということになります。歴史の積み重ねに甘んじることなく、現在も毎年試行錯誤を繰り返しながら、さらによいもの作り上げていくための努力を行事検討委員会を中心に続けています。

多くの宿泊行事は学年単位でおこなわれていますが、「雪の学校」は、3年生から6年生までの子どもたち全員が参加するという、他では類を見ない大きな行事です。

子どもたちは、6年間の宿泊行事の中で、日常生活では味わえない体験や出会いを通して、「協力して生活する力」「協力してやり遂げる力」「責任を果たす力」を学ぶとともに、多くの感動を経験します。

6年間の宿泊行事とともに喜びを分かち合い、困難を乗り越えてきた経験は、自身の生活力としてだけでなく、どんな場でも他者と協力して生活していけるという、いわば「生きる力」として実を結んでいきます。

◎各学年宿泊行事

1年	なかよしキャンプ（清里）	1泊2日		
2年	農漁村の生活（館山）	春:1泊2日 秋:2泊3日		
3年	山の生活（黒姫）	3泊4日	雪の学校（黒姫）	4泊5日
4年	山の生活（高遠）	3泊4日	雪の学校（黒姫）	4泊5日
5年	海の生活（平戸）	5泊6日	雪の学校（黒姫）	4泊5日
6年	洋上小学校（日本近海）	8泊9日	雪の学校（黒姫）	4泊5日

なかよしキャンプ（1年）2泊3日

きょうはペンダントをつくりました。すっごくたのしかったです。てんとうむしグループはななにんいます。わたしはひとりでねられないけど、がんばってねてみようとおもいます。



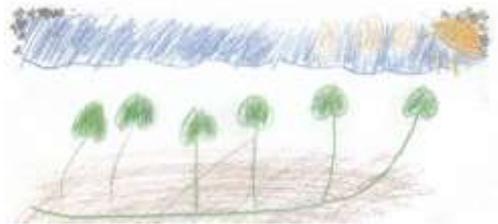
きょうはかわへいきました。かわがつめたすぎてはやくあるけませんでした。さかなはいませんでした。あといしをひとつもってかえました。ふくがいっぱいぬれました。



農漁村の生活（2年）春1泊2日 秋2泊3日

春の日記

今日は、さつまいものなえをうえました。はっぱを土の上に出してくきを下にしておきます。1年生がよろこんでくれるとうれしいので、大きいさつまいもができるといいな、とおもいながらうえました。みんなにまけないぐらいのさつまいもをとりたいです。パートナーさんまってね。



秋の日記

今日は、フィールドワークをしました。花クラブという花のうかに行きました。ポピーのたねはこしょうみたいでした。こしょうくらい小さいたねがあんなに大きくなるのがびっくりです。

今日は、すすきさんののう家にさつまいもとらっ花生をしょうかくに行きました。らっ花生は、はっぱをぜんぶまとめてぬきます。かたいので立ってぬきます。おいもは、ちょっと手でほってからぬきます。はやくおうちにもってかえて、おかあさんとおとうさんとおりにやります。

山の生活（3年）3泊4日

今日、登山をしに行きました。たきがありました。苗名滝です。水がたくさんとんできました。「気持ちいい。」と言いました。なぜなら、山を登って、とてもあせをかいていたからです。「ここまでとどくんだ。」自然はふしぎでした。

今日は、はじめて野外調理をして、切ったり、かわをむいたりことができました。でも、たまねぎのかわをむくときに、たまねぎは目にしみて、もうなみだが出そうでした。それで、切るのが終わっても、まだ目がひりひりしていました。



山の生活（4年）3泊4日

今日は、山の生活1日目です。きのうの夜はねむれないぐらい楽しみでした。バスで3時間かけて着いたのは、長野県高遠です。東京都は全くちがいで、自然がたくさんあって、人がいなくて、とてもすてきな所でした。今日登るのは東尾根。たく山のきゅうな坂。土のおい。それから、山でしか見られない景色。私にとっては、とても最高の場所でした。そして、夜はテント泊があります。今はねぶくろをして日記を書いています。明日はメインの守屋山に登ります。たく山ねて明日にそなえたいと思います。



海の生活（5年） 5泊6日

今回の遠泳は、最初で最後のものになると思います。だから、バディの友達とリーダーと完泳できるようにがんばろうと思いました。浜に向かう時、人津久の浜がいつもより近く感じました。

今日は遠泳本番です。遠泳を始めたときに「もう完泳できる」と感じました。

しかし最初から波があり、息がみだれてしまいました。リーダーが、「ブクブク、パッ。ブクブク、パッ。」と、リズムをとってくださって、息が落ち着きました。その後は、スムーズに楽しく泳げました。

私は、はじめは海の塩辛い水がのどに入ってあわててしまっただろうなと思って、海がこわかったです。でも、日に日に海が優しくなっていてくれると、今、気付きました。海、ありがとう。そして、完泳おめでとう。



洋上小学校（6年）8泊9日

（前略）

洋上小学校最終日の午後、東京の竹芝が見えてきました。なぜかこの船から下りたくなくて、あまり東京の陸地を見たくないくらいでした。自分がこんな思いになるとは、洋上小学校前には思いもしませんでした。何よりもすばらしい船員さんたちに会うことができたのがいちばん貴重な経験でした。下船式では航海士さんと抱き合い、悲しかったです。でも僕は今回船員さんにしか教えてもらえないことを教わりました。たくましく生きる力と努力を忘れずに、ここをスタート地点として優しい船員さんのような人になりたいと強く思った最高の8泊9日間でした。



雪の学校（3～6年）4泊5日

雪の学校が終わりました。来年は最上級生だなと思ったので6年生の動きを見ていました。

- ・ 机運びや乾燥室の整理の仕事を率先していた。机をどこに置くかなど、皆に指示をしていた。
- ・ 食缶運びで一番重い物を持ってくれた。
- ・ 下級生に積極的に話しかけていたり、遊んだりしていた。
- ・ ひとりぼっちの子が出ないように、みんなに男女問わず話しかけていた。
- ・ 3年生の布団を運んであげていた。
- ・ 急いで自分の布団をたたみ、下級生の布団をたたむ手伝いをしていた。
- ・ 掃除をすぐに始めていた。
- ・ 3・4年生が大変なとき「いいよ、やるよ。」といい手伝ってあげていた。



ぼくも来年は6年生です。がんばります。

6. よくあるご質問

【入学試験について】

- Q 受験に際してキリスト教の信者であるかどうかは、問われますか。
- A キリスト教についてご理解いただくために教会や教会学校への出席はお勧めしますが、キリスト教信者であるか否か、また信仰する宗教によって合否が影響されることはありません。入学後もキリスト教についてご理解いただくために教会学校への出席はお勧めしておりますが、信仰を強制することは一切ありません。
- Q 受験資格について教えてください。
- A 翌年度4月に小学校入学の学齢に達する幼児ならば受験できます。
- Q 受験をする際、居住地や通学の範囲に制限はありますか。
- A 国内外のどこに住んでいても受験できます。基本的に通学範囲の制限もありません。概ね30分から1時間程度の通学時間ですが、近県からの通学者もおり、1時間半前後の通学時間の児童もいます。
- Q 募集人数は何人ですか。
- A 男子44名、女子44名の合計88名です。
- Q 青山学院幼稚園からは何人くらい入学するのですか。
- A 男子20名、女子20名の合計40名です。
- Q 青山学院中等部への進学について教えてください。
- A 中等部進学を希望する者について初等部で学力面・生活面において審議をし、中等部への推薦（内部進学）手続きをとります。例年98%ほどが中等部へと進学しています。
- Q 学校の施設・行事などを見学できる機会がありますか。
- A 5月と9月に学校説明会、6月にオープンスクールを実施しており、校舎内を見学することができます。詳しくはホームページでご確認ください。
- Q 幼稚園・保育園に通っていないのですが、受験できますか。
- A 受験できます。幼稚園・保育園に通っている、あるいは通っていないことによる合否への影響はありません。
- Q 入学試験に向けて、何か準備をしておくことはありますか。
- A ご家庭での生活や幼稚園・保育園の生活を大切にしてください。様々な形で親子のかかわりを持っていることがのぞましいです。
- Q 保護者面接の日に両親の都合がつかなかった場合は、日時を変更できますか。

- A 保護者面接は、10月半ばから開始します。日時はこちらで指定させていただきます。海外出張などやむを得ない場合を除き、原則として変更は出来ません。
- Q 早生まれですが、入学試験の際に不利なことはありませんか。
- A 入学試験は、生年月日順にグループに分けて行います。生まれ月による有利・不利はありません。
- Q 保護者の学歴や職業が受験に影響しますか。
- A 受験に関して、保護者の国籍・職業・学歴による合否への影響は一切ありません。青山学院初等部の教育へのご理解をいただけることを最重視しています。
- Q 受験に当たって青山学院への寄付金、入学予約金を払うことがありますか。
- A 一切ありません。
- Q 紹介状や推薦状の必要はありますか。
- A 必要はありません。また、ご用意いただいても受け取ることはできませんのでご了承ください。
- Q 家族や親族に卒業生がいることで、優遇されますか。
- A 出身や関係に因らず、現在の青山学院初等部の教育にご理解頂けることを重視しております。入学試験は個別テスト、集団行動観察、保護者面接の3つの領域で総合的に合否を決めておりますので、優遇はありません。
- Q 転入・編入の募集について教えてください。
- A 基本的に欠員が出たときに実施しますが、募集の有無は年度により異なります。ホームページでお伝えいたします。なお、海外からの帰国子女を受け入れる特別の枠はありません。

【学校生活について】

Q 学校生活で大切にしていることはどのようなことですか。

A ① キリスト教教育

青山学院は一人の宣教師によって始められたミッションスクールを基としています。学校生活の土台にあるものはキリスト教信仰です。毎日の礼拝、聖書を学ぶ「宗教」の授業、食前の感謝のお祈り、各クラスでの下校前のお祈りなど、生活の至る所でキリスト教の価値観を大切にしています。

② 教科学習

基礎・基本を確実に身につけることと共に、活用的・発展的な学習を設定しています。「本物」に触れることで、事実を確かめ、感じる力を育てています。調べる・まとめる・発表するという学習過程を大切にしています。

③ 食事

生活の一部である食事も大切な教育の場と考えています。ひとりひとりの子どもを大切にし、身体ばかりでなく、心を育てる食事であることを目指しています。

1年生のはじめに、簡単な軽食で、給食の準備の仕方や食べ方、片付け、ルールなどを学んでから給食をスタートします。その後、教室給食や2学年合同で食事をいただく食堂給食を通してさまざまな場所での食事の準備の仕方や片付けの方法などを学んでいます。

また、6週間に1度の学年ごとに頂く木曜ランチオンでは食堂が「青山レストラン」へと変わります。その一学年のためだけに作られた特別の料理を食べながらテーブルマナー、会食の楽しみ方、お客様をおもてなしする心を学んでいきます。

Q 語学教育について教えてください。

A 1年生から6年生まで週2時間英語の授業があります。日本人3名とネイティブスピーカー2名が英語専門の教師として授業をおこなっています。また、上級生はクラスを二つに分けて少人数で授業しています。

2010年度より青山学院英語教育センターが作成した独自の教科書『Seed』を順次使用し、初等部1年生から高等部3年生までの12年間を一貫した「4-4-4」制の英語教育を展開しています。その他、夏季休暇を利用したオーストラリアホームステイプログラムなども行っています。

Q 渋谷という立地ですが、通学路の安全は確保されていますか。

A 初等部は渋谷駅から徒歩約10分、表参道駅から徒歩約10分となっています。いわゆる繁華街と呼ばれる地域は渋谷駅をはさんだ反対側になりますので、通学路を守れば安全です。

Q 児童間のトラブルはどのように解決していますか。

A 学校で当事者の間に教員が入り、話し合いによって解決しています。必要に応じて、ご家庭に連絡します。保護者の方が学校に相談なしで動かれてしまいますと、問題がこじれることがあるので、「教員主導・児童主体」という原則へのご理解をお願いしています。

Q 学校の防犯・安全対策について教えてください。

A 警備員、防犯カメラにより常時来校者に注視しております。又、来校者は守衛所で確認いたします。児童への安全指導を図ると共に、教師による校内巡視も行っております。また、「登下校確認システム」にて児童の登下校の時刻を保護者の携帯電話等にメールで連絡しております。

Q 携帯電話の所持は許可されていますか。

A 携帯電話の所持については、弊害の方が大きいという判断で許可していません。GPS機能のみの位置通報機器の所持は認めています。（中等部も同様の方針です）

Q 災害時の対応はどのようになっていますか。

A 校舎は耐震構造となっております。災害があった際は学校内でお子さまを保護し、メールにて各ご家庭に保護状況を連絡致します。（お子さまは、お迎えがあるまで学校にてお預かり致します。）

東京の私立学校の「登校時の緊急避難校ネットワーク」にも加盟しており、登下校中に震災にあった場合に近くの私立の小中高校にて保護され、初等部に連絡が来るようになっています。

その他、学期に1回防災訓練、帰宅経路別の集団下校訓練を行っています。

Q 途中で学費の支払いができなくなった場合の制度等がありますか。

A 学費等の支援給付制度が定められています。これにより、正式の手続きを経て認められた場合は、学費等が支給されます。対象者の氏名は公表されません。



青山学院初等部

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷 4-4-25

TEL 03-3409-6897 (初等部直通)

